

前回までの鈴木邸



プロによる内装作業が着々と進む中、LDKのパーケットフローリングのオイル塗布を家族と友人総出で作業。1度塗りでムラ無く仕上げる高性能なルビオモノコートのおかげで塗布作業は問題無く終了するも、塗布後の布が突火するトラブルに見舞われ肝を冷やす。説明書はちゃんと読もう！

大規模リノベがついに完了

昭和住宅が生まれ変わりました！

1985年築の昭和丸出しな実家を、手放すのではなくリノベしようという当企画。カスタムカーの世界でお馴染みの“レスト・モッド”の手法を家にも転用し、クルマ好きの理想であるガレージ住宅を、遂に作り上げました！

PORN SUZUKI'S #06
HOUSE RENOVATION PROJECT

Text/Takayoshi SUZUKI
Photo/Ken TAKAYANAGI, Takayoshi SUZUKI



1F GARAGE

電動ドアが付いた夢のガレージ

「和室の壁をプチ抜いてそこをガレージにできるのか？」というのが、今回のリノベ計画の全ての始まり。開口部を補強して強度を確保すればイケるとなり、そして完成した姿がコレだ。後々ガレージ内もイジっていくだろうということで、内壁はあえて合板のまま。仕事部屋から行き来できるように室内ドアも付けてある。



ガレージドアは、周りのクルマ好きの先輩達が全員一致で薦めてきた「REMCO」を選択。予算と納期の都合でウッド製はあきらめ、スチール製とした。リモコンでドアを開閉できるのでチョー便利。



WORK ROOM

ガレージを一望できる大型窓付き仕事部屋

ガレージに隣接する部屋に窓を設け、そこで仕事をするのが夢だった。その夢を叶えてしまった。リノベ前の父親の部屋にあった巨大な本棚はここに移設。「前の家の痕跡を残す」というのも今回のリノベの大事なテーマなのだ。この部屋だけフローリングは濃いめの色とした。



ガレージが覗ける大きな窓、行き来できるドア、そして巨大で重厚な本棚と、仕事部屋に欲しかった全てを備えることに成功。外にも出られるのでいつでも脱走可能だ。



Profile

ポルノ鈴木

実家を出てからは平屋の借家ばかりを渡り歩き、共同住宅暮らしをしないままこうしてブーメランのように実家（リノベ済）に戻ってきたフリーダム・ライター。リノベローンに加え、2カ所借りているコンテナ倉庫代がそろそろキツくなってきた昭和48年生まれの48歳。



「家は3回建てないと理想の家にならない」ということではない。「理想の家なんて建てられない」ということなのだ。多くの人が「家を建てること」に挑戦できるのは、人生で1回あるかないか。つまり「3回建てる」というのは不可能な事例であり、要は「家は理想通りに建たない」ということを心に刻みながら、というのがこの言葉の真意として解釈した。

「家は3回建てないと理想の家にならない」。その昔、何かの広告コピーで使われて広く浸透した言葉だ。どこか格言じみている、人によっては「なるほど」と思うのかもしれないが、実際の所は「3回も建てられるわけねーだろタコ！」というのが真っ赤に茹で上がった正直な気持ちだ。家を建てるというのは、多くの人のにとって人生最大のビッグプロジェクトを要する一大事業であり、数十年のローンと引き換えにようやく手にするものだ。それを×3回できるというのはどれだけ1UPキノコを取ってきた人生なんだよタコ！と思うのが普通の感情だろう。

しかし、いざ実際に自分が（リノベ）ションであるとはいえず、家を持つことになって、墨を吐くほどよくわかったことがある。それは「家は3回建てないと理想の家にならない」ということだ。どうもこんにちは、タコです。

間取りは大きく様変わり



リノベによって間取りはほぼ全てを変更。1階にあったLDKは日当たりの良さを求めて2階に移動。1階はガレージや仕事部屋など、筆者が主に使用するスペースが占めている。間取り変更に伴いトイレやキッチンなど水回りの位置も全て変更。

元々は1985年築の昭和な2階建て住宅

これがリノベ前の実家の姿。築36年が経過していたが、建て売りではなく良い建材を使っていた頃の注文住宅だったため、躯体もしっかりしており大規模リノベに耐えられるとプロが判断。そもそも古いモノをベースに新しい性能を与えていく手法が好きで、愛車の240Zも同様にイジってきたので、この計画も“レスト・モッド”を標榜した。

BEFORE



AFTER



外壁をミッドナイトブルーのラップサイディングにしたことで、大きくイメージが変わった外観。和室改のインナーガレージも無事完成し、道路に面した壁には電動シャッターも設置した。オレンジの玄関ドアが良いアクセント。



2F LIVING

柱をあえて残した 広大な空間

自分と兄貴が使っていた6畳部屋×2と押し入れをプチ抜き、14畳相当のLDKへとアレンジ。間に残った柱はリノベ前の名残で、強度的に取っても大丈夫ということだったが、あえて空間の分け目として1本だけ残した。隣家があるとはいへ、南向きなので日当たりが良い空間となった。



6畳部屋を2つ繋いだ縦長の部屋なので、パーケットフローリングの連続感が際立っているのもお気に入り。炊事洗濯といった家事の動線を纏める為に、洗濯＆乾燥機も2階に設置。頼むぞ乾太くん！

KITCHEN ホーロー製の質感がたまらない

当初はステンレス尽くしの業務的な台所を目指したが、タカラのホーロー製キッチンを見た瞬間に「コレ！」となったので即採用。色味も妻の意見で淡いグリーンとした。LDKが一つの空間なので、突き当たりの光景として色つきのキッチンにしたのは正解。キッチンがある東側から良い風が入るので、窓を設けるのも忘れなかった。



KIDS ROOM 天井が高くロフトベッドもOK

子供部屋をどうするかは最後まで悩んだが、小6と小1の二人の息子は一つの部屋に取めることに決定。それなりに広く天井も高いので、将来的にはロフトベッドを2台入れることも可能だ。北側は隣家と接近しているので、窓を配して全面を壁とした。



BED ROOM 2 結局ここが夫婦寝室に？

2階にあるもう一つの寝室は、ゲストルームか子供部屋のバックアップとして考えていたが、1階寝室が仕事部屋騒音問題で使わなくなりそうなので、ここを夫婦寝室とすることにしよう。2階は家族の為、1階は全て自分の為になってしまうような心配だ(笑)。



TOILET 2 アメリカ製のハンドブローを設置

2階には洗面所がないので、2階トイレ内に手洗い場所を追加。そこでどうせならと、米軍基地流れのUS製ハンドブローも設置してアメリカ感を向上。電気工事屋さんが何とか付けてくれました。



ENTRANCE ガラスブロックが良い感じ

アメリカというよりは昭和の日本テイストだが、ガラスブロックにも憧れがあったので玄関の明かり採りとして採用。ガラスのカット面は悩んだ末にこのダイヤモンド形状とした。玄関ドアも窓付きのものを選択。下駄箱は特に凝らずに木目であることだけを優先。



BED ROOM 1 夫婦寝室にするはずが……

仕事部屋の隣は夫婦寝室にするつもりでクローゼットも2つ配置したが、仕事部屋に行くには必ずここを抜ける必要があり、なかつ隣からキーボードを叩く音が夜中じゅう聞こえ続けても妻は熟睡できるのか？ という問題に直面。このままではここはコレクションルームになってしまう(笑)。

STAIRS 階段は実家時代のまま流用

階段も「前の家の痕跡を残す」ことを適用し、傷もそのままに殆ど触らずに流用。本当は塗装すらしたくなかったのだが、職人さんには「古いまま」というのはあり得なかったのか、どこかのタイミングで塗られてしまった。このへんの意思疎通の難しさを実感……。



TOILET 換気も兼ねて小窓を設置

階段下のデッドスペースを生かす形で、1Fトイレを階段下に移動。換気用に小窓を設けたが、トイレ臭が逃げるよりもガレージから排ガス臭が入ってくるようになってしまった。



BATHROOM パナの木目に惚れました

洗面と浴室には凝りたかったが、ここはカッコ良さと便利さがトレードオフになりがちなので、素直にパナソニックのシステムを採用。浴室壁面の木目の質感がよく、スコピカ浴槽のスペックもお気に入り。洗面所はやや狭く、脱衣所としても使いにくいのは後から気づいた反省点。



これは職人さんのナイスアドリブ。収納スペースの床面に余ったパーケットフローリングを流用して、カッコ良く仕上げてくださいました。

た挙げ句に酔潰けにされた。端的に言えば、予算と時間。家づくりにはこの二つの制約があるので、理想と現実はどこかで切り離す必要がある。特に今回の我が家の場合、次男の小学校入学に合わせた4月前の入居はマストであり、そこから逆算していくと諸々のスケジュールはギリギリだったので、「これがイイあれがイイ」なんて呑気に言っている余裕は無く、決め事はテキパキと進めていく必要があった。

そこで理想は理想としつつ、今回のリノベは自分なりに「勤所」を決めてそこに注力。間取り変更、インナーガレージ、ラップサイドディングの外壁、無垢材のフローリング、クロス張りではない白塗りの壁、に要点

を絞り、それ以外の部分はある程度成り行きで進むことをアリとした。この勤所さえ押さえれば、自分の好きなカッコイイ家になるのでは良いし。不必要に凝らないシンプルな家は自分の身の丈に合っているし、これから「この家を育てていく」という感覚で暮らしていけば良いわけだ。

人生で家は1回しか建てられない。だからと言って過剰に詰め込み、理想を追い求め過ぎてはいけない。家はただのハコ。その中に何を詰めて、どう暮らしていくかが肝要なのだ。

今までの借家暮らしを思えば、東京郊外にガレージ付き住居を所有できただけでも上々。各部に自分の勤所が生きた家で新しい生活が始まることに、今は喜びでいっぱい！

細かい所にもできる限りこだわりました!

電気スイッチは絶対にアメリカ製！と気合いを入れたが、Toolboxであっさり揃ったので入手に苦労はなかった。マイナスネジで留まっているのも嬉しい。

廊下やちょっとした場所は、シンプルに工業系のソケット照明を剥き出しで設置。LED球を入れれば明るさも充分で、電球交換もしやすい。

クロス張りの壁はイヤだったので、壁面は石膏ボードを張ってから塗装。ボードの継ぎ目もあえて横方向だけ残し、アクセントにしている。

NEXT

次回はよいよ引っ越すです!



屋根裏は まだ未完成 屋根裏収納にも手を加え、以前よりもスペースを拡張。しかしここだけは作業が持ち越されており、撮影時にはまだ完了していません。なんせモノが多いので、収納スペースが増えるのは有り難い!

1階には倉庫も置いちゃう?

庭だった部分は全部コンクリ敷きにして駐車スペースとしているが、ここに2台停めることはないで奥に倉庫を建てることを計画中。グリーンパベルの木製倉庫なら、見た目にもカッコイイはず!

